

2024年6月27日

明治30年に誕生した牧場で、約5年ぶりに放牧を開始！

こうとく  
**奥日光エリアの光徳牧場が**  
**7月1日にリニューアルオープン！**  
 ～国際エコリゾート日光の観光拠点の再興を目指します～

東武鉄道株式会社  
 東武興業株式会社

東武鉄道（本社：東京都墨田区）のグループ会社である東武興業（本社：東京都墨田区）では、**奥日光エリアの光徳牧場を7月1日（月）にリニューアルオープン**します。

東武グループでは、「国際エコリゾート日光」の観光価値を最大化していくため、観光体験の強化、地域連携によるエリア価値向上を推進しています。

今般、その取り組みの一環として、明治30年（1897年）に誕生し、至近にある日光アストリアホテルを運営する東武興業が2021年5月に承継した光徳牧場で、約5年ぶりに牛の放牧を再開し、場内レストランの営業も再開します。また、牧草地の見晴台には、日光国立公園内の倒木を活用したベンチを新設し、静かな森のなかでくつろげる環境も整備します。今後も段階的なりニューアルに着手し、奥日光の観光拠点として再興を目指します。

この地域は、男体山・女峰山・太郎山の日光三山や戦場ヶ原などの登山・ハイキングの拠点であり、夏季には野鳥観察やトレッキング、冬季にはクロスカントリースキーやスノーシュー等の愛好家から、日光アストリアホテルの良質な源泉かけ流しの露天風呂とともに長年愛され続けてきました。

今般、同地区の景観や雰囲気に対応しい機能・サービスを強化していくことで、奥日光の観光拠点としての価値を向上していきます。

リニューアルの詳細は別紙のとおりです。



△牧草地



△レストラン



△光徳牧場公式キャラクター  
 「KOUTOKU' N（こうとくん）」

光徳牧場 リニューアルオープン 概要

- 1 **リニューアルオープン日**  
2024年7月1日
- 2 **営業時間** 9時00分～16時30分
- 3 **所在地**  
日光市中宮祠2452
- 4 **施設概要**  
牧草地、牛舎、レストラン
- 5 **敷地面積** 50,924㎡
- 6 **牛種と頭数** ブラウンスイス種 5頭  
※放牧は一部の牛のみを予定
- 7 **アクセス**
  - (1) 電車・バスの場合  
東武日光駅から東武バス光徳経由  
湯元温泉行で約70分  
「光徳温泉 日光アストリアホテル前」下車すぐ
  - (2) 車の場合  
清滝ICから県道120号経由で約40分  
駐車場 50台（無料）
- 8 **協力会社** 日光霧降高原 大笹牧場株式会社



△光徳牧場 近隣地図

以上

〈参考〉

光徳牧場について

◆光徳牧場の歴史

明治30年（1897年）に初代吉田徳三郎が開墾し、日光の「光」と徳三郎の「徳」からその名がつけられました。戦時下の1942年徳三郎が急逝し、妻のミヨが牧場経営にあたりました。冬は全てが凍る大地で子供を育てながら家畜の世話や牛乳配達などに奮闘し、戦後の混乱期を乗り越え経営を安定させました。

昭和50年代までミルクプラントを併設。その後、殺菌・瓶詰め工程を関東牛乳へ委託。2004年、同社廃業により、飼育をやめる2019年まで栃木乳業が製品化を請け負いました。

英国の外交官アーネスト・サトウは1872年に奥日光を初めて訪れ、光徳牧場開場の前年、1896年に湖畔に山荘を建てています（現・中禅寺湖畔の英国大使館別荘記念公園）。アーネスト・サトウの山荘には英国人女性旅行家イザベラ・バードも滞在し、1873年創業の日光金谷ホテルとともに国際避暑地の起点となりました。

◆ブラウンスイス種について

ブラウンスイス種の原産地はスイスで、19世紀以降アメリカで改良が進められました。毛色は銀灰色から黒褐色まで種々であるが、鼻の周りが白くなっているのが特徴です。

現在日本国内における本品種のほとんどは乳用種として飼育されており、ブラウンスイス種のミルクは、乳たんぱく質の組成が良くチーズ生産の原乳に適しています。日本全国では約2,000頭しかおらず、非常に少ない珍しい牛です。

以上